

第1回 石清尾山古墳群 稲荷山支群 発掘調査現地説明会資料

～稲荷山姫塚古墳の発掘調査成果～

平成25年11月10日(日)
高松市創造都市推進局文化財課

稲荷山姫塚古墳 3トレンチ

1 はじめに

「史跡石清尾山古墳群」について

高松市街地の後背部に島状に浮かぶ石清尾山山塊（峰山・稲荷山・浄願寺山の総称。各山にはそれぞれ別称あり。）中には、極めて多くの古墳が存在します。特に古墳時代前期（西暦3世紀中頃～4世紀代）にかけての時期に、「積石塚」、「積石塚古墳」と呼ばれる石積みによる墳丘構築を特徴とした古墳が数多く、連綿と築かれたことが古くから知られていました。積石塚は古墳時代前期の讃岐を中心とした地域で特徴的に見られる古墳で、強い在地性を表す墳丘構築方法であると理解されています。石清尾山塊は、讃岐でも最も大規模な積石塚が集約的に築造された場所として全国的にも著名な地域です。また、古墳時代後期の終わりごろ（6世紀後葉～）にかけて、多数の盛土円墳が築かれています。積石塚築造の断絶後、時を隔てて同一地点が墓域として利用されたこととなります。こうした特徴が古墳時代史を考える上で極めて重要な遺跡であることから、これらの古墳の一部が国史跡に指定されています。



猫塚古墳 空中写真



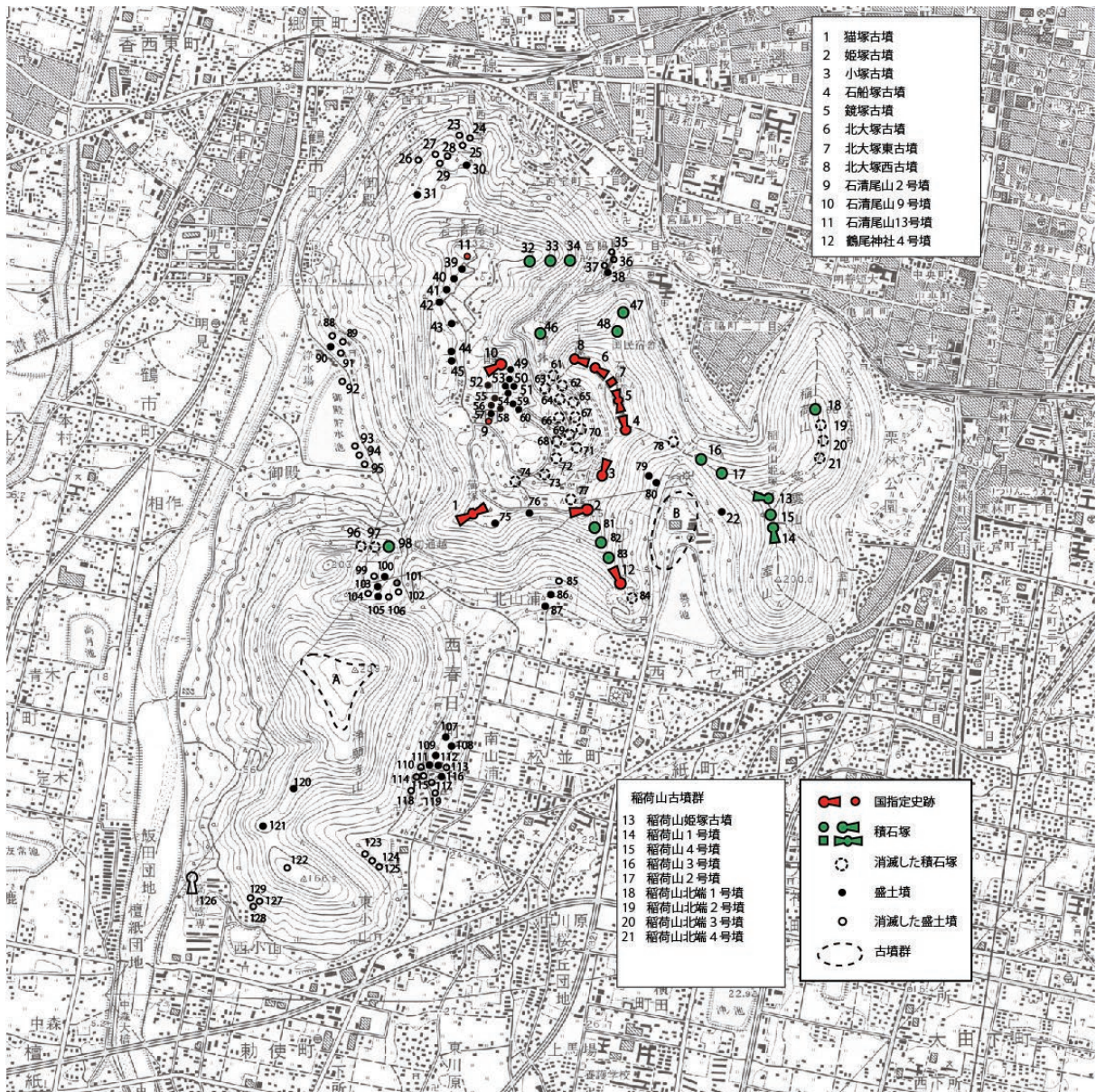
鶴尾神社4号墳 竪穴式石槨



石船塚古墳 刳抜式石棺



石清尾山2号墳 横穴式石室



- 1 猫塚古墳 2 姫塚古墳 3 小塚古墳 4 石船塚古墳 5 鏡塚古墳 6 北大塚古墳 7 北大塚東古墳 8 北大塚西古墳
 - 9 石清尾山2号墳 10 石清尾山9号墳 11 石清尾山13号墳 12 鶴尾神社4号墳 13 稲荷山姫塚古墳 14 稲荷山1号墳
 - 15 稲荷山4号墳 16 稲荷山3号墳 17 稲荷山2号墳 18 稲荷山北端1号墳 19 稲荷山北端2号墳 20 稲荷山北端3号墳
 - 21 稲荷山北端4号墳 22 稲荷山5号墳 23 西方寺4号墳 24 西方寺6号墳 25 西方寺5号墳 26 木里神社2号墳 27 木里神社3号墳
 - 28 木里神社5号墳 29 木里神社4号墳 30 木里神社6号墳 31 木里神社1号墳 32 石清尾山14号墳 33 石清尾山15号墳
 - 34 石清尾山16号墳 35 峰山墓地内4号墳 36 峰山墓地内3号墳 37 峰山墓地内2号墳 38 峰山墓地内1号墳 39 石清尾山17号墳
 - 40 石清尾山18号墳 41 石清尾山12号墳 42 石清尾山11号墳 43 石清尾山19号墳 44 石清尾山20号墳 45 石清尾山10号墳
 - 46 石清尾山23号墳 47 北大塚北方1号墳 48 北大塚北方2号墳 49 摺鉢谷西斜面5号墳 50 石清尾山7号墳 51 石清尾山8号墳
 - 52 摺鉢谷西斜面4号墳 53 石清尾山21号墳 54 石清尾山6号墳 55 摺鉢谷西斜面3号墳 56 摺鉢谷西斜面1号墳 57 石清尾山3号墳
 - 58 摺鉢谷西斜面2号墳 59 石清尾山5号墳 60 石清尾山4号墳 61 摺鉢谷東斜面1号墳 62 摺鉢谷東斜面2号墳
 - 63 摺鉢谷東斜面3号墳 64 摺鉢谷東斜面4号墳 65 摺鉢谷東斜面5号墳 66 摺鉢谷東斜面7号墳 67 摺鉢谷東斜面6号墳
 - 68 摺鉢谷東斜面10号墳 69 摺鉢谷東斜面9号墳 70 摺鉢谷東斜面8号墳 71 摺鉢谷東斜面11号墳 72 摺鉢谷東斜面12号墳
 - 73 摺鉢谷東斜面13号墳 74 摺鉢谷東斜面15号墳 75 石清尾山22号墳 76 石清尾山1号墳 77 摺鉢谷東斜面14号墳
 - 78 石船塚東方古墳 79 奥ノ池4号墳 80 奥ノ池5号墳 81 鶴尾神社1号墳 82 鶴尾神社2号墳 83 鶴尾神社3号墳
 - 84 鶴尾神社5号墳 85 北山浦3号墳 86 北山浦1号墳 87 北山浦2号墳 88 御殿神社2号墳 89 御殿神社3号墳 90 御殿神社1号墳
 - 91 御殿神社4号墳 92 御殿貯水池4号墳 93 御殿貯水池1号墳 94 御殿貯水池2号墳 95 御殿貯水池3号墳 96 野山10号墳
 - 97 野山11号墳 98 野山3号墳 99 野山9号墳 100 野山1号墳 101 野山5号墳 102 野山6号墳 103 野山2号墳 104 野山8号墳
 - 105 野山4号墳 106 野山7号墳 107 南山浦12号墳 108 南山浦13号墳 109 南山浦11号墳 110 南山浦6号墳 111 南山浦9号墳
 - 112 南山浦10号墳 113 南山浦8号墳 114 南山浦4号墳 115 南山浦5号墳 116 南山浦7号墳 117 南山浦3号墳 118 南山浦2号墳
 - 119 南山浦1号墳 120 浄願寺山56号墳 121 浄願寺山57号墳 122 小山顶古墳 123 片山池1号墳 124 片山池2号分
 - 125 片山池3号分 126 がめ塚1号墳 127 がめ塚2号墳 128 がめ塚3号墳 129 がめ塚4号墳
- A 浄願寺山古墳群 B 奥の池古墳群

石清尾山古墳群 分布図

分布図は、国土地理院発行の25,000分の1の地形図「高松南部」を一部改変して使用

2 石清尾山古墳群の調査履歴

石清尾山古墳群に関する最も古い記録は、江戸時代に記された『三代物語』という文献中に見られます。この文献には「石船（一名天の岩舟）吾之を見るに人を葬る石槨に似たる可」とあり、現在の石船塚古墳の刳抜式石棺のことを指していると考えられます。

その後、明治43年の猫塚古墳の盗掘をきっかけに古墳の存在に注目が集まるようになり、資料紹介や踏査の記録が報告され始めます。その後、昭和3年刊行の香川県『史蹟名勝天然記念物報告第3集』に古墳の分布や各古墳の特徴が紹介されました。

こうした基礎的な調査・報告を基礎として、昭和6年～8年に梅原末治氏を代表とする京都帝国大学による調査がなされ、昭和8年に『讃岐高松石清尾山石塚の研究』として成果が公表されました。この調査では、積石塚を主な対象として、悉皆的な踏査による分布図の作成と各古墳の測量図の作成、写真記録の多用、積石塚の構造に関する基本的な知見の整理と盗掘を含む過去の記録の収集と精力的な聞き取り調査など、今日でも石清尾山古墳群における基礎的なデータがほぼ整理されました。一方で、広大な範囲を対象とした極めて短期間での調査であり、積石塚に関しては表面観察による地形測量を行ったのみで、発掘調査を伴う詳細な調査はなされませんでした。また、測量図の精度および墳丘に対する認識も今日的な水準では不十分な点が認められます。この調査後、昭和9年に石船塚古墳が「石船積石塚」として石清尾山古墳群の中で最初に国史跡に指定されました。

昭和43年には、峰山における大規模な観光開発計画が持ち上がりました。開発に先立つ古墳の分布調査が高松市教育委員会によって行われ、協議の結果、昭和60年に猫塚古墳など9古墳が国史跡へ追加指定されました。

昭和56・57年には鶴尾神社4号墳の墳丘が一部崩壊したことを受け、高松市教委による緊急調査が実施されました。竪穴式石槨と墳丘上面を全面的に精査する調査が行われ、墳丘構築にあたっての石材の選択的な用法や墳丘形態の特徴が明らかになるとともに、出土土器から最古級の前方後円墳の一つに位置づけられたことなど、大きな注目を集めました。鶴尾神社4号墳は平成元年に国史跡に追加指定されています。

平成22年度から、高松市教委と徳島文理大学文学部は石清尾山塊を対象とした分布調査と古墳の現状確認を実施しました。その結果、稲荷山山中には未指定であるが、既指定の古墳とほぼ同時期で、規模も遜色のない古墳が複数現存していることを確認しました。また、それらの古墳が周辺環境や利用状況の変化により緩やかな破壊の危機に瀕していることから、早急な対応が必要であるとの認識を得ました。こうした状況を踏まえ、高松市教委では平成24年度より、稲荷山山中に所在する積石塚を史跡「石清尾山古墳群」に追加指定することを目指し、調査を開始しています。第一の対象として稲荷山姫塚古墳を選定し、測量調査および発掘調査を開始しています。

年・年度	事項	史跡指定	調査	調査主体	報告・刊行物	委員会	備考
明和5年 (1768)	三代物語に石船石棺の記述						増田休意著。石船（一名天の岩舟）吾之を見るに人を葬る石槨に似たる可
明治43年 (1910)	猫塚古墳盗掘						
明治44年 (1911)					長町彰1911「讃岐国石清尾山古墳」『考古学雑誌』 1911「近時発見の珍品」 考古学雑誌第2巻第3号		
明治45年 (1912)	猫塚遺物 東京帝室博物館へ						
大正2年 (1913)			踏査	谷井清一			高橋健自1916「銅鉾銅剣考」『考古学雑誌』第6巻第2号に引用
大正6年 (1917)					笠井新也1917「石塚の研究」『人類学雑誌』第32巻第1号		
大正8・9年 (1919・1920)					長町彰1919・1920「讃岐国石清尾山の群集墳殊に其積石塚に就て（上）（下）」『考古学雑誌』第10巻第4・5号		
大正12～13年 (1923～24)	鶴尾神社4号墳盗掘						
昭和3年 (1928)					長町彰1911「讃岐考古集録」『考古学雑誌』第18巻第2号		
昭和3年 (1928)					香川県史蹟名勝天然記念物調査会1928『史蹟名勝天然記念物報告』第3号		
昭和6年 (1931)			石清尾山古墳群調査	京都帝国大学			
昭和8年 (1933)					京都帝国大学文学部考古学研究報告第12冊『讃岐高松石清尾山石塚の研究』		
昭和8年 (1933)				笠井新也	「讃岐国石清尾山の石塚に就いて」『考古学雑誌』23巻第12号		
昭和8年 (1933)				後藤守一	「積石塚の問題」『考古学雑誌』23巻第12号		
昭和9年 (1934)		石船積石塚（石船塚古墳）史跡指定					
昭和43年度 (1968)	峰山開発株式会社より遺跡分布調査の申出						
昭和45年度 (1970)		9古墳の史跡追加指定答申（国文化財保護審議会）					
昭和46年度 (1971)			緊急発掘調査（1次）	高松市教委	高松市石清尾山古墳群緊急発掘調査概報（第1次）		
昭和47年度 (1972)			緊急発掘調査（2次）	高松市教委	高松市石清尾山古墳群緊急発掘調査概報（第2次）		
			南山浦古墳群調査	香川県教委			4基
昭和48年度 (1973)					浄願寺山・稲荷山古墳群分布調査概報 石清尾山塊古墳群調査報告		
昭和55年度 (1980)	鶴尾神社4号墳一部崩壊		鶴尾神社4号墳緊急調査事前調査	高松市教委			
昭和56年度 (1981)			鶴尾神社4号墳1次調査（測量）				
昭和57年度 (1982)			鶴尾神社4号墳発掘調査 指定地域緊急測量調査		鶴尾神社4号墳発掘調査報告書		
昭和58年度 (1983)	営林署に指定同意の申請						同意受ける
昭和58年度 (1983)	石清尾山13号墳環境保全工事						

年・年度	事項	史跡指定	調査	調査主体	報告・刊行物	委員会	備考
昭和59年度 (1984)		石船積石塚の名称変更と史跡追加指定申請（9古墳）					
			浄願寺山古墳群分布調査 南山浦古墳群発掘調査	高松市教委			5基
昭和60年度 (1985)		史跡追加指定（9古墳）					
					史跡石清尾山古墳群保存整備計画	史跡石清尾山古墳群保存整備計画策定委員会	
					南山浦古墳群調査報告書		
昭和61年度 (1986)			鶴尾神社4号墳等調査事業	高松市教委			
					現況地形測量図		
昭和63年度 (1988)			史跡石清尾山古墳群保存調査（1次）				
					史跡石清尾山古墳群保存調査報告書		
平成元年度 (1989)		鶴尾神社4号墳追加指定					
			史跡石清尾山古墳群保存調査（2次）				
平成2年度 (1990)	鶴尾神社4号墳応急保存工事						
平成3年度 (1991)			石清尾山古墳群2・13号墳予備測量				
平成9年度 (1997)						史跡石清尾山古墳群事業計画策定委員会設立	
平成18年度 (2006)	鶴尾神社4号墳崖面崩落						
平成22年度 (2010)	鶴尾神社4号墳盛土工事開始						
平成24年度 (2012)			稲荷山姫塚古墳墳丘測量	高松市教委		石清尾山古墳群調査会議設置	
平成25年度 (2013)			稲荷山姫塚古墳後円部発掘調査	高松市教委			

H25.11.10 現在

石清尾山古墳群関連年

3 稲荷山姫塚古墳における既往の調査

(1) 笠井信也 踏査 (大正 5 年)

稲荷山姫塚古墳に関する初の報告です。意図的に表面を石垣状に積み上げたものを「築石塚」、不規則に積み上げられたものを「積石塚」と定義した上で、稲荷山姫塚を始めとする石清尾山古墳群は前者に当たるとしました。稲荷山姫塚の前方部に 3 段の石垣状の築石が存在することなど、墳丘の構造に着目した報告がなされています。

(2) 京都帝国大学による調査 (昭和 8 年)

墳丘測量図・墳丘写真が報告され、以後今日まで基礎的な資料として用いられてきました。石材の積み方や岩盤との関係など、墳丘の構築方法にも言及されています。

(3) 高松市教育委員会 浄願寺山・稲荷山古墳群分布調査 (昭和 47 年度)

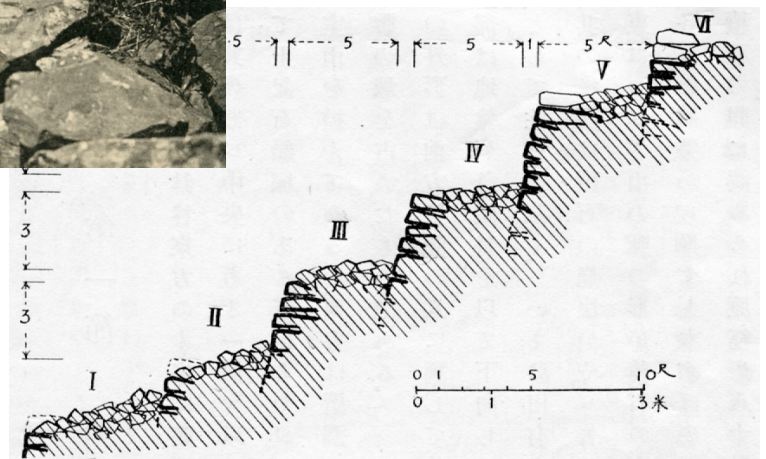
稲荷山山塊における踏査で、京都帝国大学による調査以降の遺跡の現状を確認しました。その結果、京大報告には掲載された古墳のうち、いくつかについては既に現存しないことを確認しています。

(4) 高松市教育委員会・徳島文理大学による踏査 (平成 22 年度～)

古墳の遺存状況、崩壊の危険性から調査対象古墳を選定し、第一に稲荷山姫塚古墳の調査を実施することを決定しました。



稲荷山姫塚古墳前方部写真
(京都帝国大学 1933)



稲荷山姫塚古墳前方部の段築 (京都帝国大学 1933)

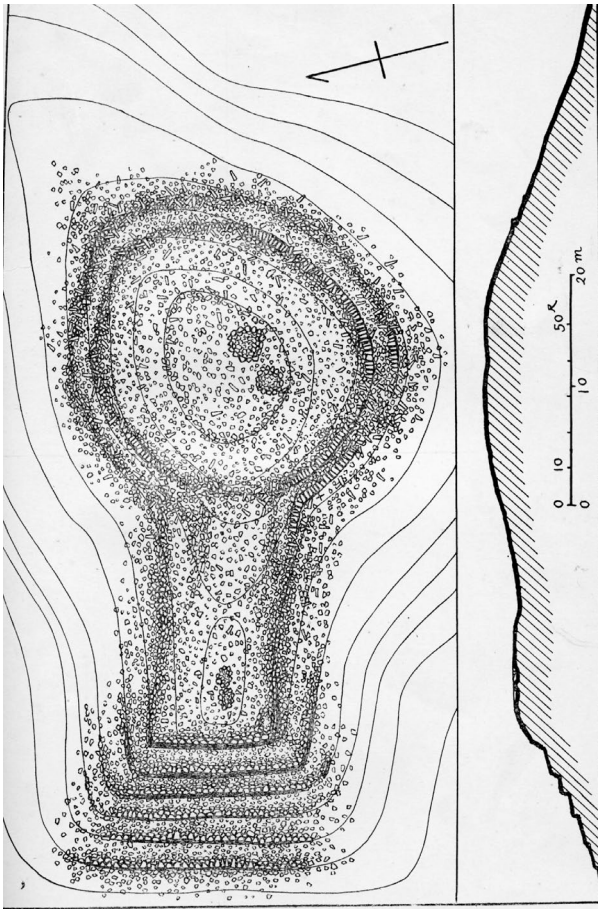
4 稲荷山姫塚古墳 調査の目的と方法

① 調査の目的

稲荷山山塊に所在する未指定の古墳を対象に、特に積石塚を石清尾山山塊全体で把握し、保存・活用の計画を作成するため、史跡石清尾山古墳群への追加指定を目指します。

②-1 測量調査の方法

古墳上面を入念に清掃し、3次元レーザー測量（下図右）を行うとともに詳細な観察を行いました。入念に観察を続けると、複数の箇所で見積り本元の石積みが残存している範囲を確認したため、その位置をレーザー測量図に書き込み、現状の把握を行いました。



稲荷山姫塚古墳墳丘3次元レーザー測量図

稲荷山姫塚古墳測量図（左：京都帝国大学 1933 右：高松市 2012 3次元レーザー測量）
（縮尺 = 1/400）

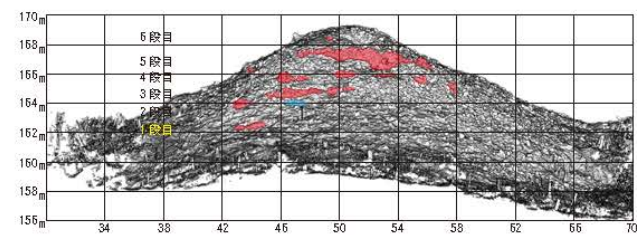
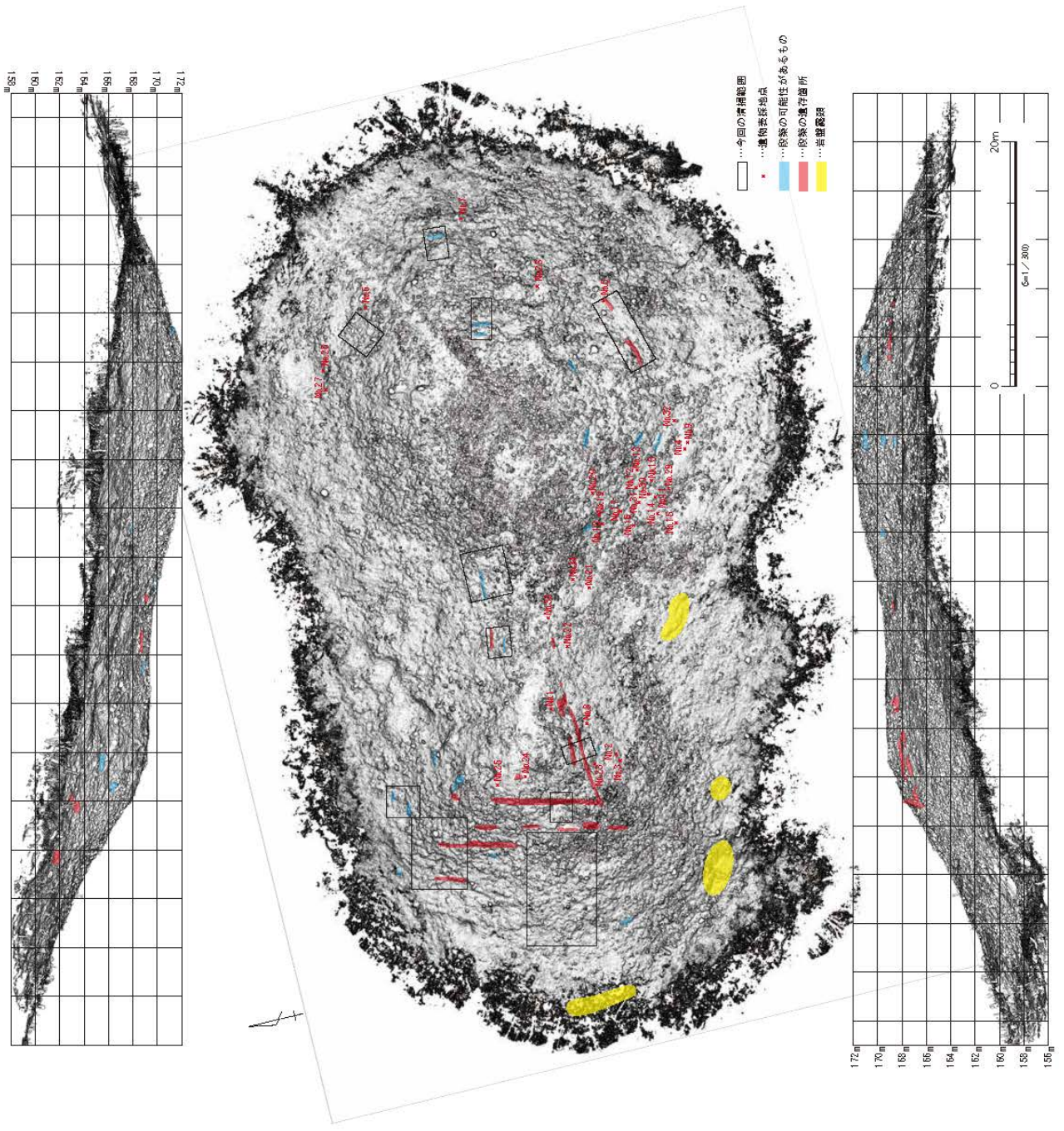


図1 平面・立面図 (1/300)

墳丘測量平面・立面図と表面観察の所見

②-2 測量調査の成果

測量調査および現地表面の入念な観察の成果としては

- 1) 階段状の石積みが前方部前端のみでなく、各所に残存している。
- 2) 特に前方部南側面では良好で、前方部形状が撥形を呈する可能性が高い。
- 3) 前方部側では階段状の石積みの下方に、墳形と相似形を採らない不規則な石積みが見られる。
- 4) 随所に地山である岩盤の露頭が確認でき、墳丘規模を推測する手掛かりとなる。
- 5) 後円部側には明瞭な幅広い平坦面が確認でき、墳丘本来の構造を反映している可能性が高い。
- 6) 埴輪片など遺物の散布が比較的多い。

ことなどが明らかになりました。一方で、古墳の崩落は全体的に及んでおり、特に墳丘の規模や階段状の石積みの規模、後円部の形状などについては地表面の観察だけでは明らかにしえないことも確認しました。

稲荷山姫塚古墳の調査は史跡への追加指定を目指すものであり、そのために必要な情報を最小限の発掘調査（破壊）で入手することが求められます。このため、文化庁および専門家からなる石清尾山古墳群調査会議で複数回協議を行い、限られた場所での発掘調査を実施することを決定しました。



高松市教委・徳島文理大学文学部による
分布調査状況



石清尾山古墳群調査会議での現地協議

5 平成 25 年度 稻荷山姫塚古墳の発掘調査成果

(1) 調査方法

a. 調査区の設定

後円部の発掘調査区は、①バラス礫を含む幅広平坦面が認められた（1・3 トレンチ）、②古墳の基礎の部分に関わる情報を得るうえで、調査区を長く設定できる（1・4 トレンチ）、③古墳の形状と全長を把握するため（4 トレンチ）、石材が露出した壁面が認められ、古墳の芯材に関わる知見を得やすい（2 トレンチ）、以上を理由に設定しました。また、墳丘部分では積み石による段構造を幅広く捉えること、古墳の基盤では古墳の外周に人工の構造物が無いかを確認することなど、部位によって確認すべき点が異なるため、調査区の幅を墳丘部分は広く（2～3m）、古墳の基盤は狭く（1m）設定しました。

b. 調査方法

調査方法の蓄積がない積石塚古墳の発掘調査であるため、事前に調査方法を定めて調査しました。調査手順は、①表土除去、②転落石の除去、③古墳基盤の断割り調査（深く掘削し壁面などを観察することで古墳の情報を得る調査法）、④墳丘部分の断割り調査、⑤記録作成・埋め戻し、以上を基本とし、それぞれの工程内で遺構の観察や図面作成・写真撮影などの記録を作成しました。



1 トレンチ 表土・転石除去後（南から）

(2) 各調査区の調査成果

ここでは、調査成果のあった1・3・4 トレンチの状況を説明します。

1 トレンチ

- ・安山岩の板石を垂直方向に積み上げた「板石積み」を検出。残存する高さは約 35 cm、板石積みの基底部の標高は約 167.60m です。板石積みの前面で崩落した板石が多数出土しており、板石積みは本来さらに高く積み上げられていたと考えられます。
- ・板石積みは地山の岩盤の上に石材が積み上げられており、板石は大きいもので長さが 50 cm、厚さが 4 cm 程度のものまであります。板石積みより下方に人工の構築物は認められず、この部分が後円部南側の墳端にあたる考えられます。



1 トレンチ 板石積み検出状況（南から）

- ・墳端よりも下方は、古墳築造時には地山の岩盤が露出した状態であったと考えられます。

3 トレンチ

- ・断割り調査区の幅 1m で板石積みを検出（墳端を確認）しました。板石積みの残存高は約 70 cm, 基底部の標高は約 167.74m です。
- ・板石積み基底部の標高を 1 トレンチと比べると, 14 cm 程度 3 トレンチの方が高くなります。
- ・板石積みは地山の岩盤の上に直接積み上げられていますが, 板石積み直下の岩盤には若干の凹凸があるため, 形状・大きさの異なる石材も一部使用しています。
- ・墳端の下方は, 地山の岩盤の上に堆積する土から遺物片が出土したことから, 古墳築造時には岩盤が露出していたことが分かります。岩盤は平滑で, 人為的に加工された可能性があります。



3 トレンチ 崩落石検出状況（北東から）



3 トレンチ 板石積み検出状況（北東から）

4 トレンチ

- ・3 トレンチよりも遺存度の低い板石積みを検出しました（墳端の確認）。
- ・墳丘下方は, 1 トレンチと同様に起伏の著しい地山の岩盤が露出しており, 人工的な構造物は認められませんでした。



4 トレンチ 崩落石検出状況（南東から）

(3) 調査成果のまとめ

稲荷山姫塚古墳の後円部の発掘調査によって, おもに以下の点が明らかになりました。

- ①後円部の北・東・南側の 3 箇所の調査区で板石積みを検出し, これよりも下方で人工の構造物が認められず, この部分が後円部の端（墳端）と考えられます。後円部の墳端は

板石積みで立体的に、かつ精巧に構築していることが明らかとなりました。最も遺存する板石積みの高さは約 70 cm で、崩落した板石の状況から、板石積みは本来さらに高く積み上げられていたと考えられます。

- ②古墳築造時、墳端よりも下方は地山の岩盤が露出した状態と考えられます。ただし、3 トレンチの岩盤は平滑であることから、古墳の築造に伴い岩盤を平坦にするなどの加工を施していた可能性が考えられます。
- ③1 トレンチと 3 トレンチの墳端の位置を参考にとすると、後円部の直径は、およそ 27～28 m 程度と考えられます。また、前方部前端の塊石の石積み部分からの古墳の全長は、46～47m 程度と考えられます。
- ④埴輪をはじめとする多数の遺物片が出土しました。遺物は崩落石中から出土したものが大半で、墳頂に設置されたものが下方に崩落したと考えられます。遺物には、単口縁・複合口縁の壺、二重口縁、円筒ないしは器台の可能性のある破片などがあり、他の積石塚古墳と比較すると種類が多い点が特徴と考えられます。
- ⑤出土遺物の年代観から、稲荷山姫塚古墳の築造は古墳時代前期前半（西暦 3 世紀中ごろ～4 世紀前半）の可能性が考えられます。

積石塚古墳に発掘調査区トレンチを設けて調査を行った事例は今回が初めてと言ってよく、この調査によって後円部の墳端の位置などの情報を得ることができました。また、多数の遺物が出土したことで、古墳の年代観を検討するうえで良好な資料が得られました。ただし、後円部の墳端の正確な構造の把握には至っておらず、課題も多数あります。

平成 26 年度には稲荷山姫塚古墳の前方部を発掘調査する予定です。後円部で得た所見や調査手法を参考として、稲荷山姫塚古墳の規模（範囲）・形状・構造を継続して把握してゆくことに努めます。

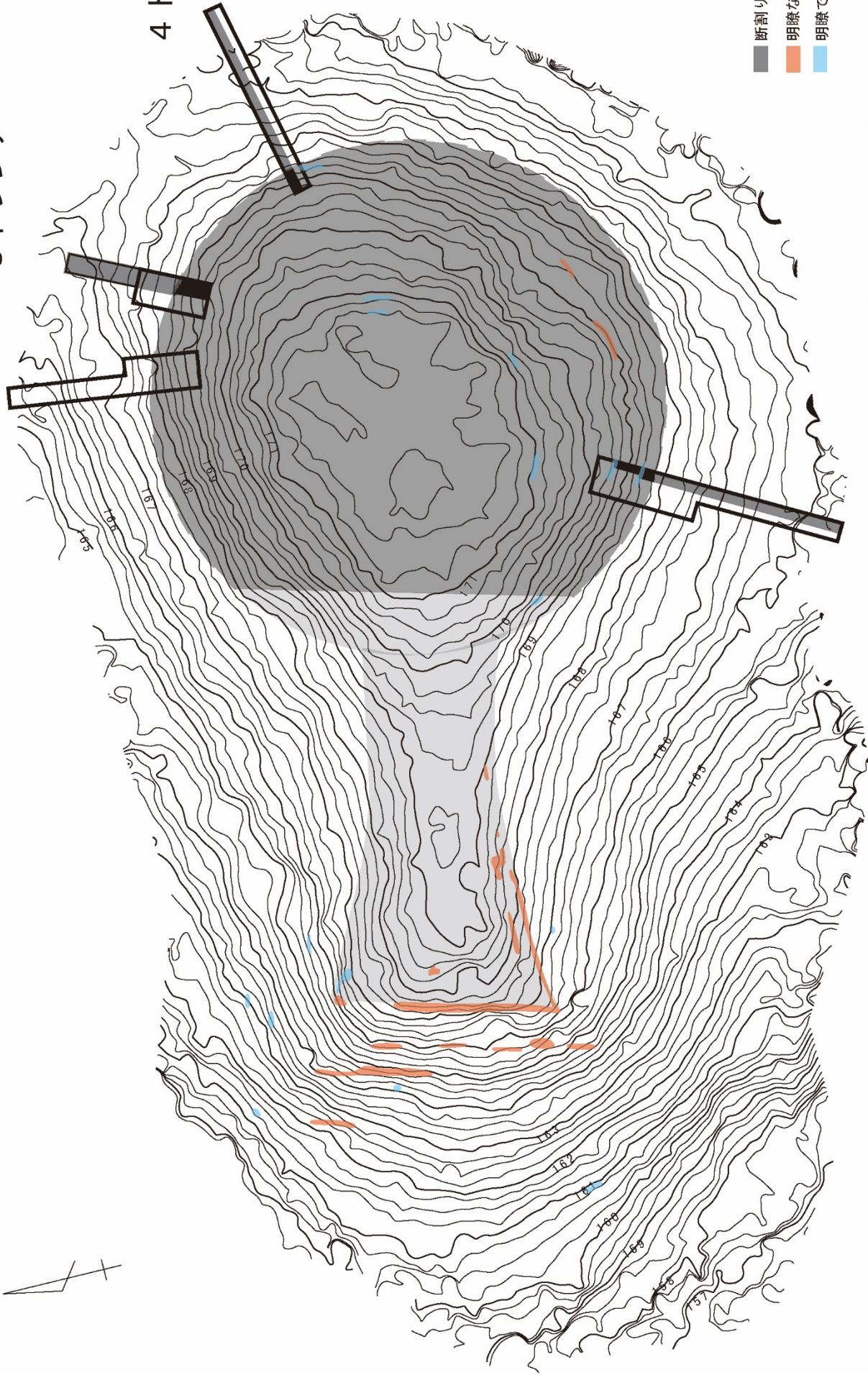
今後の調査で規模を確認する範囲

調査で規模が確定できた範囲

2トレンチ

3トレンチ

4トレンチ



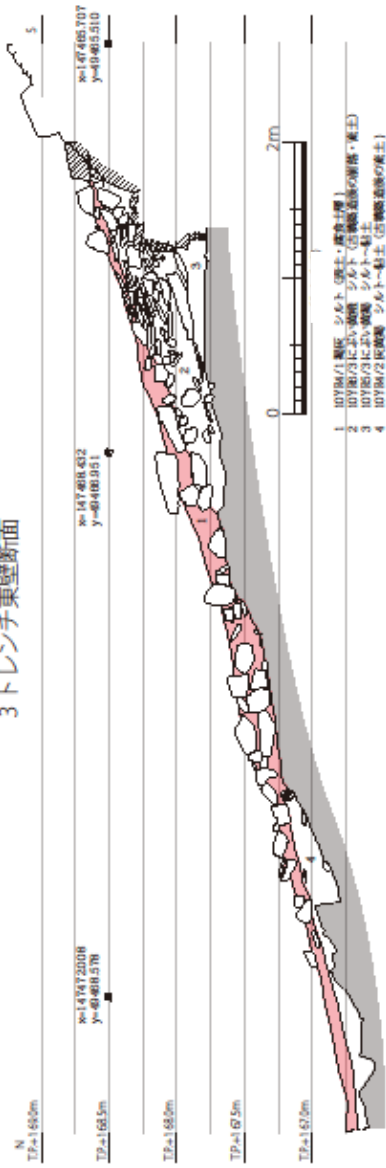
トレンチ配置図 (1/300)

1トレンチ

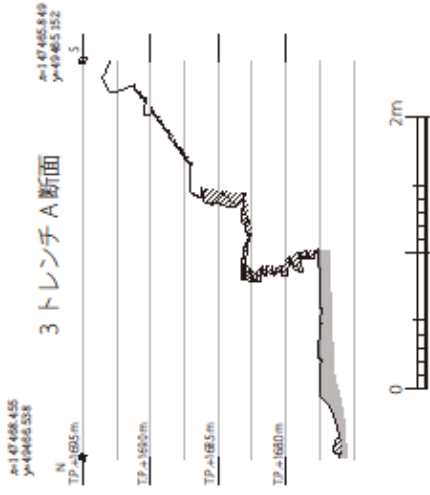


- 断割り調査の範囲
- 明瞭な段
- 明瞭でない段

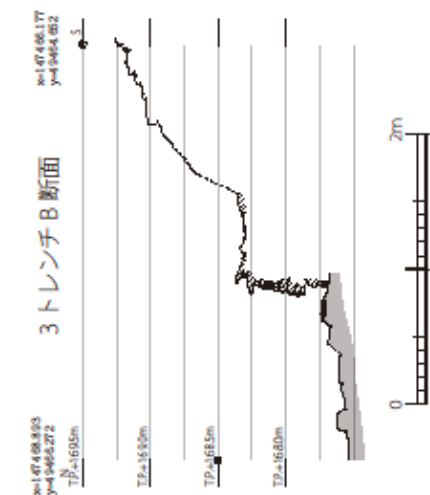
3 トレンチ東壁断面



3 トレンチ A 断面



3 トレンチ B 断面





線刻の文様を持つ埴輪の破片



線刻の文様を持つ複合口縁壺の破片



線刻の文様を持つ二重口縁



鶴尾神社 4号墳例と類似する広口壺



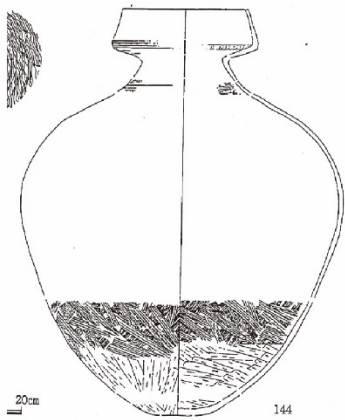
刻み目突帯と上下の線刻文様



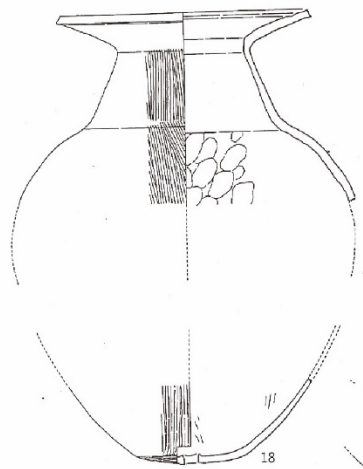
線刻文様と透かし孔



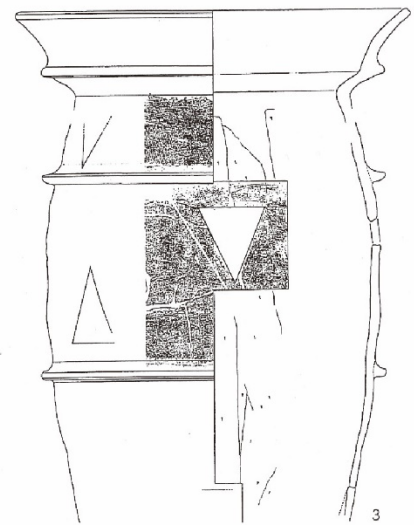
直立する底部



複合口縁壺の例 (鶴尾神社 4号墳)



広口壺の例 (鶴尾神社 4号墳)



二重口縁と突帯の例 (船岡山古墳)

Memo

